

看護婦の求人充足のための 雇用管理改善に関する調査研究

高齢社会を迎え医療サービスに対する需要が増大するなかで、その中心的役割を担う看護婦の安定的な確保は、医療施設にとって重要な課題である。

本報告書は、全国のパワーワークに求職中の看護婦を対象に、そのワークスタイルに関する意識調査を行うとともに、受入れ側である病院の先進的雇用管理事例について実施し、双方を円滑に結びつけるための職業安定機関の留意点等を明らかにしたものである。

◆研究委員会メンバー

- 〈主 査〉篠原 幸哉 足利工業大学 教授
〈委員〉井出上 博 (社)日本臨床看護家政協会 事務局長
今原 亨 労働福祉事業団 医療事業部長
友安 直子 日本大学医学部 医療管理学教室研究員
(東京医科歯科大学大学院医学系博士課程)
〈事務局〉菊田 顕 (財)雇用開発センター 常務理事
片岡 博 (財)雇用開発センター 研究調査部長
加藤 稔 (財)雇用開発センター 研究調査部

◆目 次

- 第Ⅰ部 求職中の看護職員のワークスタイル
第1章 調査実施概要
第2章 研究結果のまとめ
第3章 アンケートの基本分析結果
第4章 グループ別の分析結果
- 第Ⅱ部 看護職員の雇用管理改善ケーススタディ
第1章 病院経営の実態と看護職員の雇用
第2章 看護職員の需給関係の変化
第3章 看護職員の求人充足のための雇用管理の展開
第4章 個別事例の報告
結びにかえて